
遊戯王 信念持ちし殺人鬼

龍賀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王 信念持ちし殺人鬼

【NNコード】

N8096Y

【作者名】

龍賀

【あらすじ】

なのはの世界に飛ばされるはずが神の手違いによつて遊戯王GXの世界に・・・この世界では龍斗は自分の信念を貫き通せるのか！

プロローグ 何事も確認が大事（前書き）

さて、まだ2作品が完結していないのに新たに書き始めました。
他の2作が優先なので遅くなるでしょうが、楽しんで頂ければ幸い
です

プロローグ 何事も確認が大事

「すまんのお、なのはの世界に送るつもりが遊戯王GXの世界に飛
神に飛ばされ、今は・・・何処だ?」

「ばしちやつた」
「解体すぞ?」
「すいませんでした!..」

「すいませんでした!..」

「どうやら遊戯王の世界らしい。」

「はあ・・・遊戯王のカードなんて持つてきてないぞ?」

「それは大丈夫じゃ!ワシがお主の前世で使つておった『テッキ』を持つてきたのでな!」

「・・・シンクロとエクシーズは?」

「無論ある!」

「なら大丈夫か?いや、別になくても頑張れる『テッキ』はあるが。」

『マスター、どうやら試験のようだ』

「む? そつか」

「『イツ』は『ブラッティクロス』、まあ今はクロスという愛称で呼んでいる。」

「転移させられる前に自己紹介をし終えた。」

「龍識・・・いや、今は龍斗か、早く行かなればいかんぞい?」
「誰のせいだ誰の・・・後、今は龍識でいい」

最初は記憶を操作しようとしたらしいが、娘にばれて半殺しにされたせいでしなかつたらしい。
まあありがたいがな。

さて、デッキの確認だな。

『遊戯王ですか・・・どのようなデッキを使つてるんですか?』

「む?ああ、どうやらすぐになければならないらしいからしながら説明する、その方がわかりやすいだろ?」

『そうですね』

「受験番号2番・・・はあ、また中途半端な」

まあいいか。

『マスター』

『何だ?』

『Iのままですと失格になりますよ?』

『何?』

『後、5分で順番が来ます』

「・・・今から向かえば?」

『恐らく頑張つても10分はかかるかと』

・・・いきなり終わりか?

いや、まだだ。

「いぐぞ、いきなり終わりたくないはない」

『はい、スタンドですか?』

「いや、今回は転移だ」

『了解』

すぐに転移した。

間に合えばいいが。

「む、君は・・・受験番号2番かな?」

「はい」

「今110番の子が行つたよ、急ぎなさい」

「了解です」

「どうやら間に合つたようだ。よかつた。」

「ガツチャ! 楽しいデュエルだつたぜ、先生!」

「どうやら十代のデュエルは終わつたらしい。なら、

「すいません、受験番号2番、遅刻しました」

「いいでス～ノ、デ～ワ私が相手してあげル～ノ」

「・・・了解です」

間違いなく名譽挽回のためだろうな。

さて・・・デツキはこれだから・・・大丈夫だな、たぶん。

さあ、久々のデュエルだ、全力で頑張ろうか。

「「決闘!!」」

森 龍斗 L P 4 0 0 0
クロノス L P 4 0 0 0

「ワタシイの先行」

ふむ、手札は・・・微妙だな。

「ワタシイは、カードを一枚セットし、大嵐を発動なゾーネ」

大嵐

通常魔法（制限カード）

フィールド上に存在する魔法・罠カードを全て破壊する。

黄金の邪神像か。

黄金の邪神像

通常罠

セットされたこのカードが破壊され墓地へ送られた時、
自分フィールド上に「邪神トークン」（悪魔族・闇・星4・攻／守
1000）1体を
特殊召喚する。

「破壊されたゾーワ、黄金の邪神像、よつて邪神トークンを一体特
殊召喚スルゾノ」

古代の機械巨人か。

効果モンスター

星8／地属性／機械族／攻3000／守3000

このカードは特殊召喚できない。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、

このカードの攻撃力が守備表示モンスターの守備力を超えていれば、
その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

このカードが攻撃する場合、

相手はダメージステップ終了時まで魔法・罠カードを発動できない

「この一体を生贊に、古代の機械巨人を召喚スルノデス」

古代の機械巨人が召喚された瞬間、周りから「終わつたな」とか「アソシも可哀相に」とか「あの子可愛くね?」とか聞こえてきた。オイ、そこの、俺は男だ。

「ワタシイは、カードを2枚セットして、ターンエンバド（ワタシイがセットしたのは聖なるバリア・ミラー・フォースと奈落の落とし穴なノーネ、これでワタシイの勝利は完璧なノーネ）」

どうやら相手がフラグを建てたみたいだ。

まあいいか。

「では、俺のターン、ドロー!」

ふむ、何とかなるというより・・・これは酷い。

「俺は手札抹殺を発動、互いに手札全てを墓地に送り、送った枚数分ドローします」

手札抹殺

通常魔法（制限カード）

お互いの手札を全て捨て、それぞれ自分のデッキから捨てた枚数分のカードをドローする。

周りが馬鹿にしているな・・・交換カードの何が悪いのやら。

「こ」の瞬間！墓地に送られた、スノウ、グラファ、ブラウ、シルバ、ゴルドの効果発動！」

「なんでスート！？」

「スノウの効果でデッキから暗黒界と名のついたカードを1枚加える！」

暗黒界の術師 スノウ

効果モンスター

星4／闇属性／悪魔族／攻1700／守 0

このカードがカードの効果によって手札から墓地へ捨てられた場合、自分のデッキから「暗黒界」と名のついたカード1枚を手札に加える。

相手のカードの効果によって捨てられた場合、さらに相手の墓地に存在するモンスター1体を選択し、自分フィールド上に表側守備表示で特殊召喚することができる。

「効果で暗黒界の門を回収！さらにグラファの効果でそちらのセットカード1枚を破壊！」

暗黒界の龍神 グラファ

効果モンスター

星8／闇属性／悪魔族／攻2700／守1800

このカードは「暗黒界の龍神 グラファ」以外の自分フィールド上に表側表示で存在する

「暗黒界」と名のついたモンスター1体を手札に戻し、墓地から特殊召喚する事ができる。

このカードがカードの効果によって手札から墓地へ捨てられた場合、相手フィールド上に存在するカード1枚を選択して破壊する。

相手のカードの効果によって捨てられた場合、
さらに相手の手札をランダムに1枚確認する。
確認したカードがモンスターだった場合、
そのモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

奈落か・・・ならもう一枚は攻撃反応型かな?

「さらにゴルドとシルバを自身の効果によって特殊召喚!」

暗黒界の軍神 シルバ

効果モンスター

星5／闇属性／悪魔族／攻2300／守1400

このカードがカードの効果によって手札から墓地へ捨てられた場合、
このカードを墓地から特殊召喚する。

相手のカードの効果によって捨てられた場合、

さらに相手フィールド上に存在するカードを2枚まで選択して破壊

する事ができる。

効果モンスター

星5／闇属性／悪魔族／攻2300／守1400

このカードがカードの効果によって手札から墓地へ捨てられた場合、
このカードを墓地から特殊召喚する。

相手のカードの効果によって捨てられた場合、

さらに相手フィールド上に存在するカードを2枚まで選択して破壊

する事ができる。

「さりにブラウの効果で一枚ドロー!」

暗黒界の狩人 ブラウ

効果モンスター

星3／闇属性／魔族／攻1400／守 800

このカードがカードの効果によって手札から墓地へ捨てられた場合、自分のデッキからカードを1枚ドローする。
相手のカードの効果によって捨てられた場合、さらにもう一枚ドローする。

周りがざわざわ言っている・・・これくらいで慌てるなよ。

「さらに！俺は暗黒界の取引を発動！互いにドローしその後、一枚墓地に送る！」

暗黒界の取引

通常魔法

お互いのプレイヤーはデッキからカードを1枚ドローし、その後手札を1枚選択して捨てる。

「効果でもう一枚のグラファアを墓地へ、よってもう一枚のセットを破壊！」

やはり聖バリか・・・危なかつたな。

「すいませんが・・・このターンで終わらせます！」
「なんデス♪ト！？」

「俺はさらに暗黒界の門を発動！」

暗黒界の門

フィールド魔法

フィールド上に表側表示で存在する

悪魔族モンスターの攻撃力・守備力は300ポイントアップする。

1ターンに1度、自分の墓地に存在する

悪魔族モンスター1体をゲームから除外する事で、手札から悪魔族モンスター1体を選択して捨てる。

その後、自分のデッキからカードを1枚ドローする。

「効果によって墓地のブラウを除外！手札のブラウを墓地に送りドロー！さらにブラウの効果でもう1枚ドロー！」

これで大丈夫かな？

「墓地のグラファの効果！場のグラファ以外の暗黒界と名のつくモンスターを手札に戻し、このカードを墓地から特殊召喚する…」

暗黒界の龍神 グラファ

攻3000

「何故攻撃力が上がつてルヽノ！？」

「門の効果により、悪魔族は攻撃力が300アップします」

「なんでストー！？」

よし、これで墓地の闇属性は3枚になつたな。

「墓地に闇属性のモンスターが3体いる事によつて、ダーク・アームド・ドラゴンを特殊召喚！」

ダーク・アームド・ドラゴン

効果モンスター（制限カード）

星7／闇属性／ドラゴン族／攻2800／守1000

このカードは通常召喚できない。

自分の墓地の闇属性モンスターが3体の場合のみ特殊召喚する事ができる。

自分のメインフェイズ時に自分の墓地の闇属性モンスター1体をゲームから除外する事で、フィールド上のカード1枚を選択して破壊する。

「ダムドの効果発動！墓地の闇属性を1枚除外し、フィールド上のカード1枚を破壊！対象は古代の機械巨人！」

ダムドが腹の部分の武器を放ち、古代の機械巨人が破壊される。

「ノヽウ、ワタシイの古代の機械巨人ガア～！？」

この時点で終わりだが・・・まだ行動できるので行動する。

「さらに俺はグラファをもう1体特殊召喚する！」

これでゴルドとシルバの両方が戻ったな。

「門を張替え、さらに効果で墓地のスノウを除外、ゴルドを墓地に捨て、ドロー！ゴルドを効果で特殊召喚！」

暗黒界の取引か。

「取引を発動！効果は・・・わかつてますよね？」

「グヌヌ」

「俺は効果で一枚ドローし、シルバを墓地に送る・・・よつてシルバを特殊召喚！」

「これで場が埋まった。

グラファ	攻3000	×2
ダムド	攻2800	
ゴルド	攻2600	
シルバ	攻2600	

「計14000か・・・オーバーキルにもほどがあるか。

クロノス先生なんて、顔が真っ青だしな・・・いや、真っ白か？

「全員で直接攻撃！」

「ペペロンチノ！」

L P 4 0 0 0 0 L P - 1 0 0 0 0 0

「ありがとうございました
「ガックシ」

「ふむ、久々だが・・・引きがよかつたな。

この調子だとラーアイエローかな？

そう思いながら俺はこの場を後にした。

プロローグ 何事も確認が大事（後書き）

今回から始めました遊戯王！

龍「オリカはまだ完全に調節できていないため、今回は暗黒界だストラクのおかげで強くなりましたからね」。

龍「お前の知り合いは「暗黒界なんて滅んでしまえ」とか言ってたな」

まあ何せ手札抹殺さら大量展開だもの、仕方ないね！」

龍「そんな知り合いはラヴァルだつたな」

爆発や炎熱伝導場は卑怯だと思うんだ。

龍「確かにな、一気に墓地肥やしからの大量展開だからな

ラヴァル怖い。

龍「まあ・・・お前はカラクリや暗黒界、遊星もどきやリクルエクゾで遊んでるだろ？」

うん。

龍「ドッコイドッコイだ」

・・・そうだね。

龍「さて、次回の更新はいつになるかわからん、ネギまの方が更新し終えたら投稿予定だ」

なので気楽に気長にお待ち下さい。

龍「もしかしたら早くなるかもだしな」

では！また次回！－

龍「ではな」

第1話 予想外な事は案外すぐに起きる（前書き）

はい、遅くなりましたが第1話です。

残念ながら決闘はしません。

次で行けたらいいなあーと思つてます。

今回で原作キャラに会いますーまあ想像はつくと思ついますが。

それではーどうぞー！

第1話 予想外な事は案外すぐに起きる

さて、あの試験も終わり今は船に乗っている。

俺は何故かオシリスレッドだった。

別に構ねたしんたか

『恐らくマスターが試験で頑張りすぎた結果だと思いますが?』
「あればあの引きが悪い」

俺だってあそこまで回るとは思わなかつたんだよ。
久々だつたからな、あのデッキを回すのは。
他のデッキも渡されたから色々試してみよう。
どうやらシンクロを使つても大丈夫そうだし。

「おい？」

クロスと話し込んでいたり、あの時の俺の前に決闘していた少年が現れた。

—応名前は知っているが、

「君は？」

「俺か？俺は遊城十代っていうんだ、よろしくな！」

どちらで召乗るべきか・・・森か零崎か。

『（マスター、零崎でいいと思います、別に有名ではありませんで
しょうじ）』

「零崎龍識だ、龍識でいい」

「じゃあ俺も十代でいいぜー。」

本当に元気だな。

「で？用件はなんだ？まさか自己紹介だけではあるまい？」

「ん？おうー俺と決闘してくれーあの決闘観てたらワクワクしてきたんだー！」

原作でも決闘好きだったはずだが・・・まさしくその通りだな。

「（汗）では無理だ、あっちは着いたらな、同じレッドなんだからいつでもできるだろ」

「そうだな！なら楽しみにしておくぜー。」

「ああ、俺も全力で相手しよう」

「その話・・・俺も混ぜてくれないか？」

十代と決闘の約束をしていると、ラーライエローの服装のやつが来た。
コイツは・・・

「ん？アンタは？」

「俺の名前は三沢大地だ、よろしくな、2番と1番」

何故俺を見て1番という？

・・・クロノス先生を1ターンキルで倒したからか？

「俺の名前は零崎龍識だ、番号で呼ばれる筋合いはない」

「俺には遊城十代って名前があるんだ、十代って呼んでくれよな」

「ああ、すまないな、十代、龍識」

「どうやら実技試験を観ていたらしい。
まあ終わったら観るやつは多いしな。

「で？ 三沢も決闘か？」

「ああ、俺も君と戦いたくてね、もし専用のデッキが出来たら相手
してくれるかい？」

「別に構わない、その時は全力で相手する」

どんどん増えてくるな。

まあ望む所だが。

ところより・・・何故だらうか、三沢が後半になると空氣になると
がする。アニメの方だとなつてた気がするし。

「もうそろそろ着く、また今度会おう」

「ああ」

「おひー。」

「じつやいらむう着いたらじい。

わっそく降りるか。

「こぐぞ、十代」

「ああ、ぐうー！ 一体どんなやつがいるんだらうなー楽しみだぜー！」

さすが決闘馬鹿だな・・・無論褒め言葉だが。

『（マスター、神から新しいデッキが届いているみたいですが、寮の
マスターの部屋においてあるみたいです）』

「（そつか・・・変なデッキでなければいいが）」

まあ・・・楽しみにしておくか。

「お～い！龍識！早く来いよ。」

「ああ、今行く」

さて、レッド寮に向かうか。

『まあ・・・住めば都といいますし』

「おい、それは励ましか？」

今日の前にレッド寮がある・・・予想外だな。
まあ・・・嫌いじゃないけどな、こういう場所は。

「さて、俺の部屋は・・・十代の横か」

何ともいじ都合主義だな。

『デッキとカードを確認しましょ』

「そうだな」

十代とも約束しているしな。

そう思い、部屋に入った。

予想以上に綺麗だったのは驚きだ。

部屋は平均的な家のリビング並み・・・大体10畳くらいか？
にベッド+机があるな。

うん

「十分だな」

『そうですか？』

「ああ、それよりも」

今は机の上で無駄に存在感を出している「テック」を確認するか。

「どれどれ・・・あやつぱつ！」

『どういったキノコですか?』

「ああ、もう一回は

『どうですか?』

「それは内緒だ」

卷之三

「さて、改良してから歓迎会にむか・・・「あーい!」どうした十代」

急にドアを開けて十代が進入してきた。

「いや、決闘したくてしたくて我慢できねえから今から龍識を誘そ

「D」の誤り

行
一
九
二
三

「ハア～、どうしたンすか

「ん？ 龍識を誘つて決闘でもしようかなあ～って思つたから誘いに

未だ

卷之三

「ぼ、ボクは丸藤翔つス！」

「そうか、俺は零崎龍識だ、龍識と呼んでくれ、後俺は男だからな

? 1

叫ばれた・・・そんなんに俺は女顔か？

『（確實に女顔ですよね）』
「（後で話しな？クロス）」
『（スマセントシタ）』
「（遅すぎたな）」
『（アツー）』

わて、つるといこのは何とかなつたから十代と一緒に向かうか。

「じゃあ行くぞ、十代、翔」
「「おひー。（ハイツす！）」」

まあ万条田がいるだらうから・・・そつそく試すか。
そう思い、テックを入れて十代の言つ決闘場に向かつた。

第1話 予想外な事は案外すぐに起きた（後書き）

後書き「一ナーナー！」

龍「遅い、何をしていた」

構成の練り直し + EXVS

龍「・・・仕方ないとthoughtたらコレか」「すいません。

龍「・・・感謝」「一ナーナー」

白夜様、ユタ様、感想ありがとうございます！

龍「まだまだ未熟ながら頑張つていこうと思つていてる、遊戯王のプレイングも勉強していくので気長に、気楽に待つてくれ」

次はネギま更新予定です！

龍「ではな」

ではでは！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8096y/>

遊戯王 信念持ちし殺人鬼

2011年12月5日20時12分発行